

山梨県農政部試験研究機関（水産技術センター）課題評価委員会

1 評価委員

委員長	岩田智也	学識経験者	山梨大学工学部循環システム工学科 准教授
委員	羽田金祝	生産者（漁業）	山梨県漁業協同組合連合会 副会長理事
委員	津野正康	生産者（養殖）	山梨県養殖漁業協同組合 代表理事組合長

2 評価委員会

(1) 第1回 平成27年8月21日（金） 水産技術センター本所

① 事前評価課題「特定波長光による効率的なニジマス養殖技術の開発」研究員 三浦正之

課題設定の必要性	5点	ニジマスの生産効率の上昇を目指した本課題は山梨県の養殖産業に非常に有意義な研究である。
課題の新規性、独創性	5点	淡水魚で初の光とホルモン、成長の関係を探る研究であり、新規性は高い。
目的・内容の整合性、妥当性	4点	概ね妥当である。mRNAの測定に加え、対象ホルモンの測定や投与も検討して欲しい。また、生産効率の評価法についても十分検討して欲しい。
研究手法の的確性、技術的可能性	4点	北里大や企業と十分な研究協力体制がとれている。光が肉質に及ぼす影響も評価して欲しい。
成果の期待度	5点	甲斐サーモンの生産効率に貢献する研究であり期待度は大きい。
総合評価	5点	県産ブランドニジマスの確立に資する研究である。

《試験研究機関の処置》

- mRNAの測定による評価法の妥当性について共同研究予定者と再度協議を行うとともに、ホルモンの直接投与の可能性についても検討して参りたい。生産効率の評価法については、結果を養殖業者に数値等でわかりやすく示せる手法となるよう配慮する。また、特定波長光の成長への影響が明らかになった段階で味や肉質等への影響も調べることにしたい。

② 事前評価課題「魚食性鳥類による被害の軽減技術開発」研究員 谷沢弘将

課題設定の必要性	5点	内水面漁協にとってカワウやサギの被害抑制は重要である。
課題の新規性、独創性	4点	従来より実施されている課題であるが、継続的に実施が望ましい。
目的・内容の整合性、妥当性	4点	目的、内容は妥当である。
研究手法の的確性、技術的可能性	4点	防鳥糸については防鳥糸への人への安全性、対照区との比較、作業性の評価手法について十分検討して欲しい。カワウの繁殖抑制については高所での安全性確保についても検討して欲しい。
成果の期待度	4点	成果の期待は大きい。
総合評価	4点	漁業被害対策の先進県としてさらなる努力を期待する。

《試験研究機関の処置》

- 実地試験や対照区の設置により、魚食性鳥類の地理的、季節的な動向も考慮した精度の高い試験を行うと共に、簡易化だけではなく、安全性にも考慮した手法の開発を行う事としたい。

(2) 第2回 平成28年2月3日(水) 水産技術センター本所

① 事後評価課題「カワウ対策に関する研究」 研究員 谷沢弘将

研究目標の達成度	4点	擬卵及び黒色防鳥糸の効果が示されており、目標は達成されている。現場での被害は継続しており、成果の普及に期待する。
成果の有用性（普及性、波及性）	4点	いずれの成果も県内の漁業被害の低減に有用である。県外からの飛来する鳥類に対する対策も検討して欲しい。
研究の発展性	5点	広域管理が必要であり、県内外への成果の普及、活用に期待する。
研究課題選定の妥当性	4点	課題の設定は妥当であり、今後も継続して研究を実施すべきである。
総合評価	4点	広域的な対策と関係機関の緊密な連携が求められる。継続的な研究と成果の普及に期待する。

《試験研究機関の処置》

- 今回の研究では、対策場所がカワウの集団繁殖地と養魚場に限定されていることから、河川、湖沼など野外での有効な防除対策についても検討する。
カワウ対策は広域的に取り組む必要があることから、県内だけではなく県外に普及させることも視野に入れた連携を進める。